行政視察報告書

絆の会

全体事項

視察日程　　平成 30 年　11 月 12 日（月曜日）～11 月 14 日(水曜日)

調査事項　　視察先

①コミュニティバス、ミニバス導入の経過と
運営の効果と課題等について　　熊本県宇土市

②新庁舎建設について　　熊本県玉名市

視察参加議員　　今田浩徳　　清水清秋　　新田道尋　　森儀一（代表）

具体的事項

調査事項

①コミュニティバス、ミニバス導入の経緯と運営の効果と課題等

説明者　田尻清孝　企画部企画課課長
富永　司　企画課企画政策係参事
小山郁郎　議会事務局事務局長

視察事項

地域の紹介

熊本県のほぼ中央に位置し熊本市に隣接、古くから栄枯盛衰の場となって現在に至っております。面積は 74.30 ㎢、人口 37.340 人を有し、昭和 29 年に全国初の合併をした町であり、3 回の合併を経て昭和 33 年市制施行から 60 周年を迎える市であります。また、平成 28 年の熊本地震に市内全域が被災し復旧、復興の途中であり市内にはまだその傷跡が各所に見られ、市民生活の不便さが感じられる。市庁舎も被災し解体が終わり、現在は仮設庁舎にて業務を行っています。

視察所感

少子高齢化問題はどの地域でも抱える問題であり住民サービスを考えるに当たり地域の実状を把握し対策を講じなければならない。合併の後中心地を巡る公共バスとその循環バスに接続する市街地からの公共バスを組み合わせることにより移動手段の持たない方々の移動の確保、郊外部の交通空白地から市街地への移動の確保、利用ニーズの高い医院や商業施設、公共施設間の移動の確保を目的に地域公共交通確保維持改

善協議会を平成 23 年 6 月に設立し、生活ネットワーク計画を完成、運行に向けての会議を重ね 1 年 6 か月後には試行運転に繋げています。スピード感ある執行で当市より手続きが早いと感じました。

実績効果

1 台 33 人乗りで 5 ルートの運行を始め、コースをわかりやすく作成し、また 1 年後の 25 年にはルートの簡素化、運行区域の拡大、時間帯の変更、乗継券、回数券、自動車免許返納者割引制度の導入を行い、制度利用に関してはバス会社で登録申請をできる様にして民間活性を図りました。27 年には IC カード乗車券導入、ルートの簡素化、10 便から 11 便に増便と改正を進め、利用者は当初年間 6.661 人から 29 年度は 9.105 人に増え、10 時 30 分に出かけ(外回り)、1 時に帰宅（内回り）という利用集中がわかり、市民生活の流れが理解できました。収支率は国庫補助、市補助額の増減はありますが運賃収入は 26 年度 863 千円が、29 年度は 1,117 千円になり 9.1％から 12.5％となっています。

ミニバスについては郊外から市街地へ 3 ルートで始め翌年には郊外を再区分し 6 ルートに拡大し、循環バスに接続せず直接市街地へ乗り入れやフリー降車の導入、利用者数の状況を見て廃止、増便と改正を重ね 9 人乗り 3 台のミニバスの実績は 679 千円から 998 千円と伸び、午前中は満車の路線が 2 本ほどあり需要の高さが理解できます。料金は循環バスが 150 円、月曜日から土曜日の運行。ミニバスが 200 円、週 1～3 日、1 日 3～4 便運行。

評価課題

当市も平成 30 年 11 月より市内循環バスが運行を開始しました。高齢化対策を含め市民生活を支える足として公共交通の必要性が高まることを想定し地域公共交通網形成計画を策定しスタートとなっています。市営バス、山形交通バス、大蔵村営バス、鮭川路線バスとの連携、ＪＲへの接続を考慮と　市民生活を最優先に策定されています。同様のプロセスで計画、実行になるのは導入自治体のほとんどで共通することと思います。宇土市の場合、各関係機関と婦人会や老人クラブなど多くの市民の参画を求めた会議体を作り年間 3 回以上の会議を開催、各団体の声も集約しておりパブリックコメントより充実した意見をまとめて検証されていました。運行後も更なる向上を目指しより市民に寄り添った公共交通施策を継続して行くことの大切さを学びました。当市のまちなか循環バスは始まったばかりです。乗車率、運行収支率の向上を目標に利

用促進に努めて行かなければならない。また、デマンドを含め郊外からの市民の足の確保も今後の課題として考えるべきと思います。

調査事項

②新庁舎建設について

説明者　藤森竜也　企画経営部管財課課長
荒木　勇　議会事務局次長
松野和博　議会事務局次長補佐

視察事項

地域の紹介

熊本県の北西部に位置し、平成 17 年 10 月に 1 市 3 町で合併し 152 ㎢の面積に人口 66.850 人（H30 年）を有し九州新幹線鹿児島ルートの全線開通に伴い熊本都市圏と福岡都市圏への交通の利便性が向上し従来のＪＲ鹿児島本線や九州縦貫自動車道、有明フェリーなどと併せて県北の交通拠点として発展が期待される。また、来年から放送される大河ドラマいだてんの主人公金栗四三の生まれ育った町として注目され観光客の増加が見込まれミュージアムやドラマ館の施設運営を官民協働で行い国内外に発信するマラソンの父の町でもあります。

視察所感

庁舎建設は当市にとって議論されない事項の一つという位置づけであると思っていましたが、耐震改修工事が完了して寿命が延びたとはいえあと、何年持つのか、いざとなった時の対応はと、近い内から対策を取らねばならず、建設に向けた事業策定を提案しなければならないと今回の視察を行いました。新庁舎建設に至る行程は自治体によって違いはありますが市民合意、基本構想を重点に検討し、誰からも理解を得られる提案をしなければならないとお聞きしました。合併特例債を使い一般財源捻出を抑え 70 億円の予算を元利償還金の 70%を交付税措置される有利に財政運営ができるという羨ましい内容でした。基本構想策定から完成落成までを 7 年間とし、順調な進捗でいよいよ建設着手となる時に市長選挙があり、現市長の事業推進が評価されず新市長の誕生、就任となり白紙に戻され見直しを余儀なくされ予算も削れるだけ削るという検討により 20 億円減の予算設定で実施設計をし直し、スケジュールを見直し 25 年に建築工事が始まり 27 年に完成落成を迎えました。市長交代を経て完成となりましたが、市民からは高評価の庁舎であり玉名市の

顔として発信源の機能を高めていく基地となっています。

実績効果

１階に市民生活につながる窓口部門を配置し市民生活部、健康福祉部、会計課、消費生活センターとロビーを大きくスペースをとって展示やイベント等が開催できる開放的なフロアとなっています。２階は事業教育行政部門で、建設部、産業経済部、農業委員会、企業局、教育委員会を配置し実務部門として横の連携が図りやすくなっています。３階は総務部を中心に管理部門を配置、市長室、選挙管理委員会があります。４階は議会、監査部で議場と会議室、会派室を配置しています。耐震だけで免震施工はせずコストダウンにつなげている。ユニバーサルデザインを用いすべてに市民に優しい配置となっています。ランニングコスト削減にも力を入れ数多くの省エネアイテムを採用していました。（高断熱ガラス、庇＆ルーバー、トップライト、ＬＥＤライトクールトレンチ等）総事業費は、39 億 6600 万円でした。

評価課題

庁舎建設策定中、建設中の自治体は全国で毎年 20 件ずつほどあると言います。有利に建設を進めるために国に職員を出向させたり助成、補助を念頭に情報収集に精通する国の職員を呼び込んだりと多面的に進める自治体が多く見られます。築 60 年超の当市の庁舎を考えれば持っても 20 年ほどです。耐震改修工事ができたこれからが計画策定を始める時にあると思います。市民の理解をとりつつ、建設に向けた意識の醸成を図り市民生活の基地として、防災基地としての位置づけを確立して安心安全を提供する庁舎の建設基本構想の策定をスタートすべきと思います。ありとあらゆる方策を検証しながら、より新庄市に有利にはたらく手段を議会、原課、市民みんなで考えて行きましょう。